

令和3年度 学校運営協議会 第2回会議録 抄録

日時;令和3年12月2日(木)15:45～、場所;玉野市立玉野備南高等学校 会議室

出席者;【委員】大賀、清本、角田、白髭、二宮、東、熊谷(書面)、鶴田(書面)

【事務局】三宅、川鍋、山口、松本



1 開会

・2回目の協議事項を確認するとともに図書室の改善状況を報告

社会人となる生徒たちにとって身に付けさせたい資質・能力とは何か、委員の方からの意見聴取を行い、次年度の学校グランドデザインへ反映させる予定であることを説明。図書室は高教研司書部会の助言を受け、次年度からは県立図書館から支援があることを報告した。

2 授業・施設見学

・6限目の授業を参観

1・2年生は「まなび+」の授業を行っていたが、この授業は、国語・数学・英語に関する苦手分野の学び直しに加え、時事問題を扱うもので、基礎・標準・発展のクラスに別れ、各クラスに毎時間2名の教員が指導に当たっている。3年生は「世界史A」の授業で、ICTを使って説明がなされているのを参観。この日は、4年生の出席がなくて、「数学B」の授業は休講となった。(次行からは委員の主な感想を掲載。)

【A委員】「まなび+」の授業は、少人数で丁寧な指導がなされている。また、アットホームな雰囲気を感じた。キャリア基礎や探究があるが、一人ひとりに合わせたきめ細かい指導があるのが良い。

【B委員】教室の雰囲気は生徒にとってわかりやすくしようとしているように感じた。県立高校の施設設備はすごかった。それに比べると市立高校は違いすぎる。教育に格差があってはいけない。

【C委員】プロジェクターを毎時間教室に手押しのワゴンで運ぶのは大変だ。中学校は教室に備え付けである。ここでのきめ細かい指導を見ると、中学校段階でもっとできることがあるように思う。

【D委員】教室は明るくて小さな大学の講義室のような感じを受けた。授業は、生徒と先生の距離が近く、学びやすい環境に思えた。

【E委員】夜間定時制だった昔には、卒業までには半分の生徒が辞めていったが、現在は辞める生徒は少なく、先生方の関わりが親密なのであろう。

・校内の施設を見学

施設全体の老朽化が進んでいる中で教育活動が行われていることや機械群が放置されている実習棟の具体的な有効利用についての質問をいただいた。(次行からは委員との主なやり取りを掲載。)

【D委員】体育館について、天井の天板には多くの穴が開いているが、雨漏りや破片の落下はないのか。舞台袖の階段がシロアリに食われて壊れているのも、安全面からそのまま放置するべきではない。
←階段は市教委の協力を得て修繕する予定であるが、天井の修繕は見通しが立っていない。

【A委員】図書室について、生涯学習センターと協力して整備をこれからも進めてほしい。良書と出会う機会を作るためにも図書館の整備は欠かせない。

←次年度から県立図書館の支援があるので、実習棟の空きスペースを書庫としながら、図書の入替えを進めてゆきたい。

【E委員】実習棟について、残った機械の処分は本来、行政が行うものと考え。備南高校がしているの伺い、誠に御苦労なことだ。備南のためにもこの場所を有効活用してほしい。計画はあるのか。

←本館で自由に使える空き部屋がない。雨天時の作業場や教育相談室の活用を考えている。

3 協議

(1) 令和3年度学校評価書(中間期)について

事務局から、4月の入学から10月の修学旅行・学校祭、全国大会に出場した部活動などの生徒の活躍やICTの教員研修などスライドで紹介しながら、これまでの取組を説明した。その取組に基づいて中間期における学校自己評価を確認した。委員からは「各分野でよく取り組んでいるのに、『B評価』というのは、評価が低いのではないか」という意見があった。別の委員からは「県教委の評価基準では、目標を達成していればB評価となるので、B評価が低いというわけではない」との補足説明があった。

中間期の評価は了承されたが、生徒が全国大会に出場した分野や全県・全市に汎用性のある通級指導などについては、もう少し評価が高くて良いのではないかという意見が寄せられた。

(2) 高校在学中に身に付けるべき資質・能力について

事務局から、本校で生徒に身に付けさせたい「人間力」として、3つの力（基礎的な学力・コミュニケーション力・自己管理能力）を説明した後、委員からはそれぞれの立場で「生徒が在学中に身に付けるべき資質・能力」についての提案があった。（次行からは委員の主な意見を掲載。）

【F委員】他者と関われる大切な力として「コミュニケーション能力」、他者への思いやりにもつながる力として「規範意識」、自己肯定感にもなる「前向きに取り組もうとする力」をあげたい。

【G委員】異質な集団で交流する力として、対話力、協働力、問題解決力。回復力や復元力と訳される「レジリエンス (resilience)」は、変化の激しい社会にあってストレスがかかっても諦めない粘り強さが求められていると思う。

【E委員】社会に出て「我慢する力」が必要と思う。この我慢する力というのは、自分のやりたいことを実現するまで我慢して続けるというものだ。

【A委員】「コミュニケーション力」というか、挨拶する力、学生時代や地域社会で生活して必要性を感じた。あとは「苦手なことにも挑戦する力」。仕事で、できません・しませんはないですね。

【B委員】困ったことがあった時に「相談する力」でしょうか。「自己肯定感」、「自分の意見を表現する力」、「基礎学力」。基礎学力には、金銭管理を含めることが必要でしょうね。

【C委員】社会生活で、「可愛がってもらえる力」、「所属する場所（学校）を愛する力」ではないか。

【D委員】「コミュニケーション力」というか、やはり、人と接する「対人能力」が必要ですね。

【H委員】いわゆる、読み・書き・ソロバンと言われる「基礎学力」は在学中に身に付けてほしい。

(3) その他

(2)で、社会で必要とされる基礎学力を充実させることに話が及び、高校の教育課程を実施しながら、小・中学校の学び直しを平行して行うことが、3修制の中で可能なのだろうかという疑問が示された。4修制を基本として、社会で必要とされる基礎学力をじっくり身に付けさせるべきではないかという意見が委員から出された。

4 事務連絡

・今後の予定について

学校運営協議会3回は2月の予定であること、卒業式は3月1日であるが、コロナ感染症の拡大予防のために来賓の招待はしないという県教委方針を伝える。

5 閉会

・閉会宣言 17:45終了。